



香川 浩司

代表取締役

広島県府中町出身。大学進学で愛知に移り、卒業後は飲食業、コンタクトレンズメーカー、コンタクトレンズの販売店などを経て、弟が手掛ける遺品整理の事業に従事。3年間にわたって愛知営業所として基盤を築いた後、『L.A.P 東海』を設立。現在に至る。趣味はサーフィンで30年のキャリア。



BEFORE



AFTER

株式会社 L.A.P 東海 こころテラス東海

【本社】愛知県豊明市栄町南館 234-1
【三重営業所】三重県四日市市西浦 1 丁目 2-26 西浦ビル
URL : <https://www.cocoroterrace-ihinseiri.com/>

岐阜・愛知・三重の東海3県のエリアにて心を込めた生前整理／遺品整理を行っております。
お見積りは無料です。不用品買取や各種手続き代行から、相続に関するご相談まで、まずはお気軽にご連絡ください。

遺品整理や生前整理、特殊清掃、解体工事まで お客様のニーズにワンストップで対応！

2015年設立の『L.A.P 東海』は、東海3県を中心に、遺品整理や生前整理、特殊清掃、ゴミ屋敷清掃、解体工事、古物買取まで幅広く手掛けている。屋号の「こころテラス東海」は「お困りの方の心を照らす」のスローガンが由来。本日は俳優の大沢樹生氏が訪問し、香川社長にインタビューを行った。

はじめに香川社長の歩みからお聞かせください。

広島府中町出身です。学生時代は野球部で頑張っていましたね。今もスポーツをされていて、サーフィンを30年ぐらいやっているんですよ。

スポーツをずっとされてきたんですね。では、こちらへ来られたきっかけも伺ってもいいですか？

大学進学を機に名古屋にきたんです。卒業後も地元に戻らず、大学時代から店長としてアルバイトをしていたお店にそのまま就職したんですよ。そちらは倒産してしまっただけですが、その後コンタクトレンズのメーカーに移り営業部長を務めた後、コンタクトレンズの販売店にスカウトされ、そちらでも営業部長を務めました。その時の社長に「これから伸びる業種のレポートを提出するように」と言われたんです。それで私は遺品整理の業界のレポートを提出したんです。その時には、まさか自分がこの仕事に携わるとは思ってもみませんでしたけれど（笑）。
それが今手掛けている（笑）。何か

か転機があったのでしょうか。

実は、弟に先のレポートを見せたら、広島で遺品整理業を始めたのです。それとほぼ同時期くらいに、勤めていた会社が売却され、給与面などで少しずつ環境が変わっていったんです。それが40代半ばごろのこと。その後、弟と相談して名古屋営業所としてスタートし、資金が貯まったら独立するということになったんですよ。そこから3年ぐらいで基盤を築き、独立に至りました。今は広島を中心として中国地方を弟が、愛知・岐阜・三重の東海3県を私が対応しており、弟の会社とうまく連携しながら仕事をしています。

なにか運命的なものを感じますね。業務内容としては、当時から遺品整理をメインにされているのでしょうか。

そうですね。遺品整理はもちろん、現在はニーズの高い生前整理やゴミ屋敷の清掃、孤独死現場の特殊清掃、解体工事や古物の回収まで幅広く手掛けています。

同業他社さんも多いと思いますが、その中で御社ならではの強みはどこなところでしょうか。

しいと思っています。

今後はそのような問題が淘汰されていけば良いですね。

仰るとおりです。当社から、どんどんこうした適正の輪を広げて、より良い業界にしていくこと。それも当社の使命だと思っています。

現在、スタッフさんは何名ぐらいいらっしゃるのでしょうか。

6名です。足りない場合は同業者に手伝ってもらうこともありますね。横のつながりを活かしつつ、人も育てていけたらと思っています。

最後にこれからの展望を。

昨年9月に石綿除去工事の会社を立ち上げ、家財撤去、石綿調査と除去、解体と幅広いニーズに対応可能な体制を作りました。今後も法を守り、お客様に喜んでいただけるよう努力を重ねていきたいですね。そして、社員やその家族と末永くご飯を食べたいけるよう、日々懸命に生きていきたいと思っています。



● ゲストインタビュー
大沢樹生
(俳優)

「最近テレビでもゴミ屋敷を片付ける番組があるでしょう。どうしてこれだけのゴミを溜めてしまうのかと疑問に思っていました。理由は様々なんですね。ご本人やご家族は困っていても、どこから手を付けて良いのか分からないこともあるのでしょうか。そんな時、こちらのようなプロの存在は本当に心強いことと思います。これからも地域の皆さんのために頑張ってください！」

CHECK POINT

人に必要とされる存在を目指して

▼ 45歳の時に会社を辞め、全く経験がなかった遺品整理の業界に飛び込んだ香川社長。孤独死など悲惨な現場や、家に入れないほどゴミを溜め込んでしまった現場など、様々な現場に立ち会い、それぞれの人生模様も見てきたという。「ゴミ屋敷の場合、単に面倒臭くてゴミが溜まってしまったという人もいれば、夜勤でゴミを出せない人もいます。収集癖がある人や、『溜め込み症候群』とも言われる精神の病気の人もいますよ」。原因は様々だが、ゴミを片付けることで、新たな人生を踏み出すことができると

感謝されることも多い。

▼ そんな社長が大事にしているのは、「人に必要とされること」だという。「世の中に必要とされている人、世の中に必要とされている企業は淘汰されることはない、教えてくれた人がいるんです」——遺品整理や生前整理、特殊清掃、ゴミ屋敷の清掃などは、人の役に立つ仕事であることは間違いない。これからも困っている人に必要とされるよう、法律を遵守し、適正価格でサービスを提供していかんと、社長は熱意をもって走り続ける。